

作業を始める前に

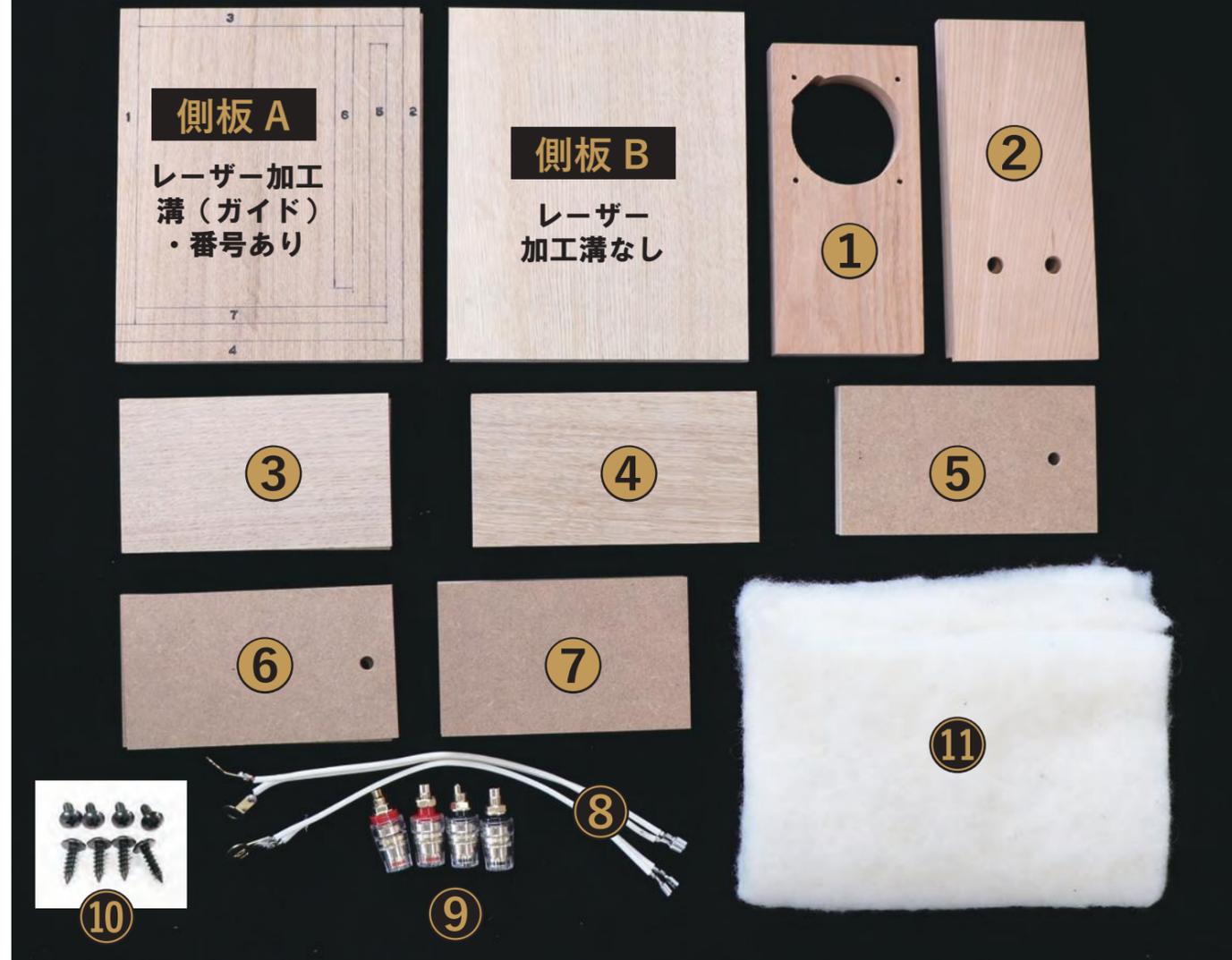
・作業に関しては鋭利な工具なども使用しますので、怪我のないよう充分注意して作業してください。

部材が揃っているかご確認ください

- ・側板 A (ガイドあり) ×2 枚 (11mm オーク (楡) 無垢材)
- ・側板 B (ガイドなし) ×2 枚 (11mm オーク (楡) 無垢材)
- ・① 前板 ×2 枚 (11mm レッドチェリー無垢材)
- ・② 背板 ×2 枚 (11mm レッドチェリー無垢材)
- ・③ 天板 ×2 枚 (11mm オーク (楡) 無垢材)
- ・④ 底板 ×2 枚 (11mm オーク (楡) 無垢材)

- ・⑤ 内部音道板 ×2 枚 (9mm MDF) ※丸穴加工済み
- ・⑥ 内部音道板 ×2 枚 (9mm MDF) ※丸穴加工済み
- ・⑦ 内部音道板 ×2 枚 (9mm MDF)
- ・⑧ 内部配線ケーブル (端子接続済み) × 赤・黒各 2 本
- ・⑨ ターミナル (マークオーディオ製 独立型ターミナル) × 赤・黒各 2 本
- ・⑩ スピーカー取付用ネジ ×8 本
- ・⑪ 吸音材 (天然サーモウール) ×1 枚

※レーザー加工溝あり



下記のものはお客様自身にてご用意ください

- ・スピーカーユニット「OM-MF4」(別売り)
- ・プラスドライバー ・ペンチ (任意) ・はさみ ・木工用ボンド ・定規
- ・はみ出たボンドを拭き取るための濡れ雑巾
- ・組み立てた部材を固定させるためのハタガネ (数本)

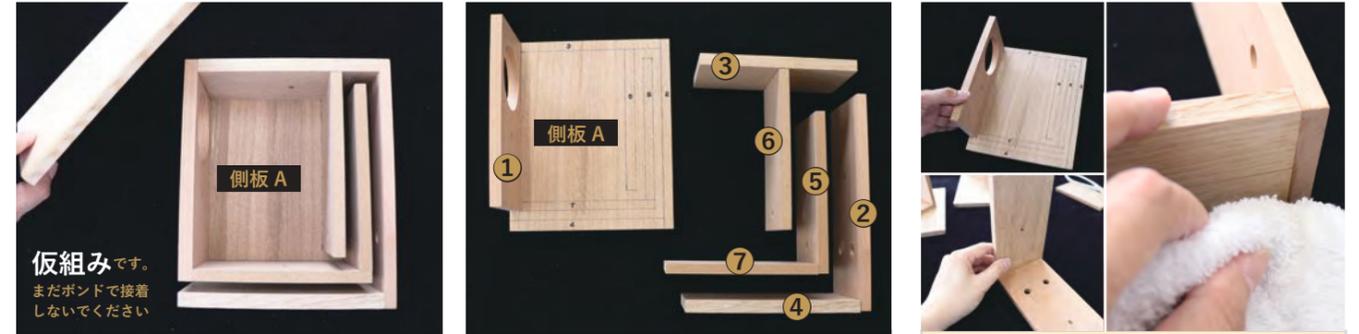


※スピーカーユニットは、stereo 編 ONTOMO MOOK 「これならできる特選スピーカーユニット 2020 年版 マークオーディオ編」 特別付録 OM-MF4 をご用意ください。

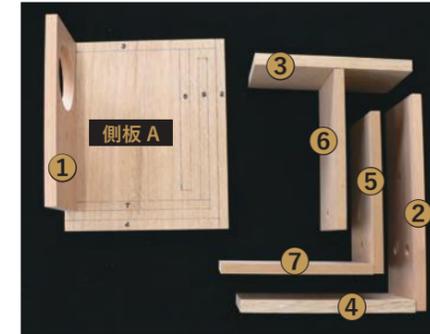


作業手順

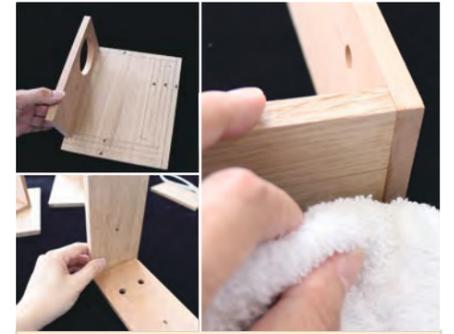
・この手順通りに進めなくても作成することはできます。作りやすい手順で進めてください。



[1] まずは、どの板をどこに置いたらよいかを把握するため、側板 A に明記されている番号およびレーザー加工溝に従い、ボンドを接着せずに板の仮組みをする。



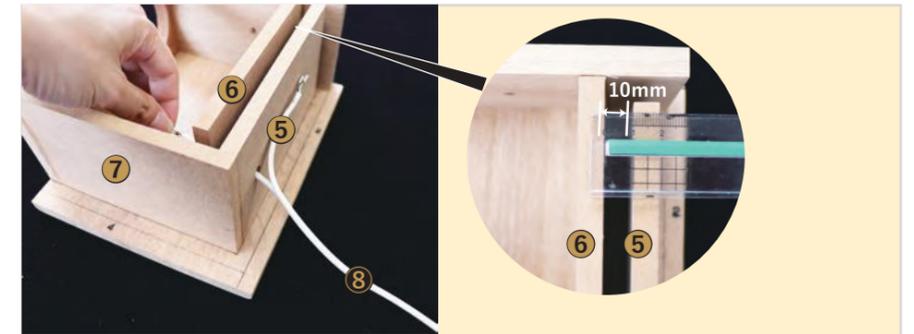
[2] 下記の 4 つのパーツを組む。
・側板 A+前板①
・T 字パーツ 天板③+音道板⑥
・L 字パーツ 音道板⑤+音道板⑦
・L 字パーツ 背板②+底板④



[3] 4 つのパーツの接着面にボンドを塗り、接着する。
ボンドの接着について
ボンドは指で薄く伸ばしながら接着することをおすすめします。はみ出したボンドは濡れ雑巾で素早く拭き取ってください。



[4] T 字パーツの接着面にボンドを塗り、接着する。
・T 字パーツは、天板③と音道板⑥を組み合わせたものです。

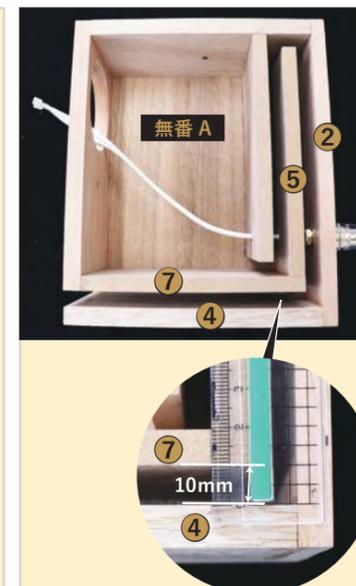


[5] L 字パーツの接着面にボンドを塗り、接着する。
ボンドが乾いたら、音道板⑤・⑥の丸穴に配線ケーブル⑧を通す
・この箇所の L 字パーツは、音道板⑤と音道板⑦を組み合わせたものです。
・音道板⑤と音道板⑥との間の音道幅は、10mm です。
・丸穴は空気の流れをなるべく遮断するためあえて小さめにしており、若干ケーブルを通しにくい場合があります。



[6] 背板②に、配線ケーブル⑧のリングとターミナル⑨を接続する。
・ターミナル⑨のナットを外し、板の穴から空気が漏れないようにするための取付用プッシュの凸部を背板②の穴に差し込んでください (ターミナルは、天面に向かって左に黒 (⊖)、右に赤 (⊕) を設置します)。
・ターミナルを設置したら、背板②の裏面にケーブル⑧の O 形のリングを取付用プッシュとナットの間にはめ込み、ナットでしっかりと固定してください

※ナットはペンチなどで必ずしっかりと固定させてください。緩い状態でターミナルを操作すると、側板貼付後にターミナルと O 形リングが外れ、修復が不可能となる可能性があります。



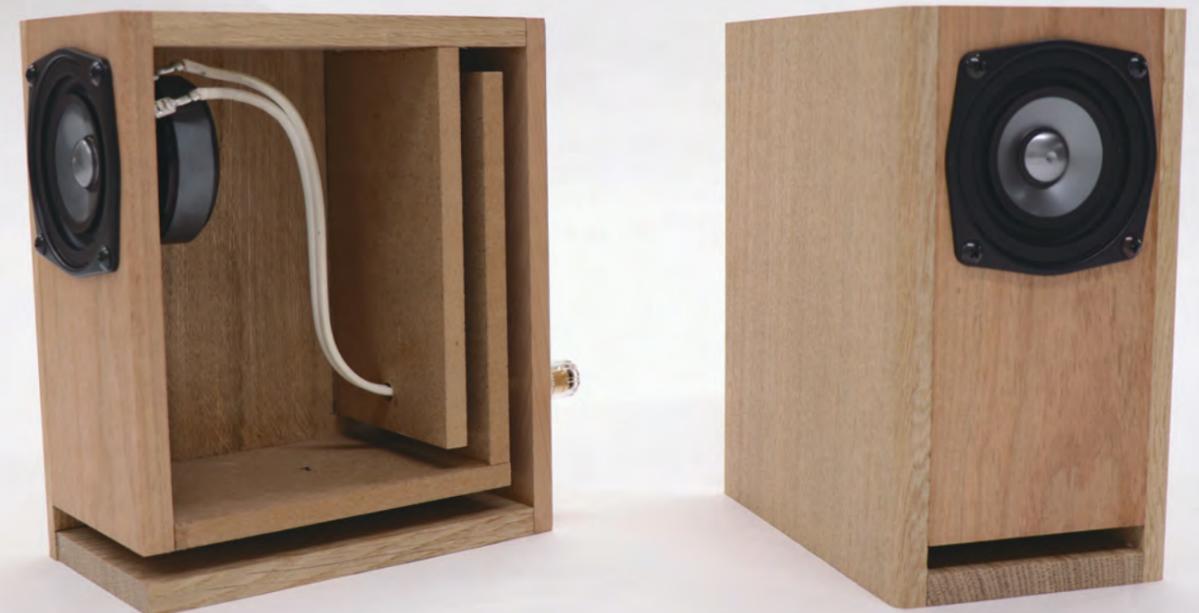
[7] L 字パーツの接着面にボンドを塗り、接着する。
・この箇所の L 字パーツは、背板②と底板④を組み合わせたものです。
・音道板⑤と音道板⑦との間の音道幅は、10mm です。

▼裏面に続きます

生形三郎モデル — LBR-3 “Meilo” — 組み立てガイド

この度は、stereo × ONTOMO Shop 商品をお買い上げくださり、誠にありがとうございます。

組み立ての前に、このガイドを必ずご一読くださいますようお願いいたします。



画像はイメージです。
対応スピーカーユニット「OM-MF4」は別売りです

[8] スピーカーユニット「OM-MF4」とケーブル⑧を接続し、前板②に取り付ける。

- ・「OM-MF4」付属の円盤状パッキンをスピーカーユニットのフレームに貼ります。
- ・「OM-MF4」付属の長方形パッキンはフレーム脚部分の鳴き止めです。任意でご使用ください。
- ・「OM-MF4」の端子の極性は、向かって左がマイナス (⊖)、右がプラス (+) です。

※この端子部分にケーブル⑧を接続 ([6] で接続したターミナル端子の⊖に接続している方のケーブルを「OM-MF4」の⊖に、⊕に接続している方のケーブルを「OM-MF4」の⊕に接続) してください。

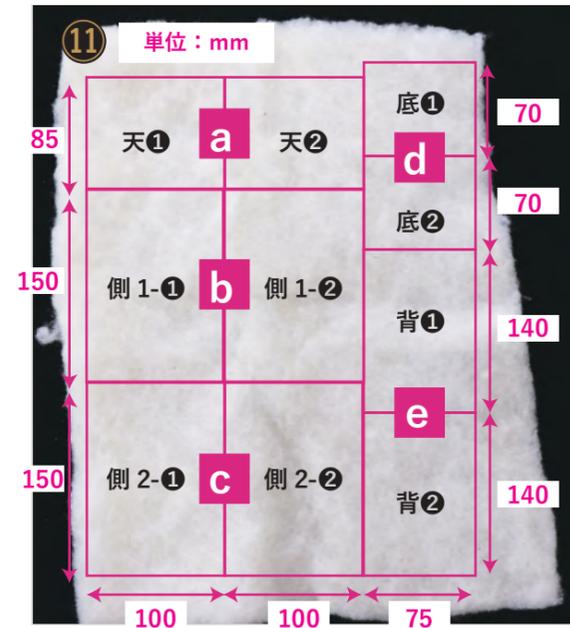


- ・「OM-MF4」をスピーカー取付用ネジ⑩でプラスドライバーを使って固定します。
- ・スピーカーユニット付属ネジではなく、本機付属の取付用ネジ⑩を使用することをお勧めします。
- ・スピーカーユニットを取り付ける際に、ドライバーの先でユニットのコーン部分を傷つけないように、手の甲でガードしながらネジを締めていただくことをお勧めします

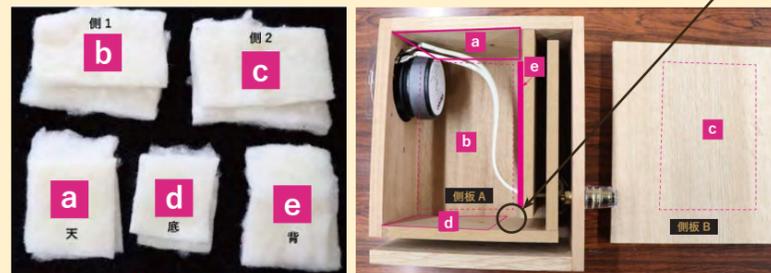


[9] 吸音材⑪を5カット (×2) にし、側板に接着する。

- ・吸音材⑪を左図を参考にしてはさみでカットしてください。
- ・カットした吸音材は、下図の位置にボンドを塗って貼り付けてください。



この部分を空気の通り道として空けて吸音材を貼り付けるのがポイントです!



[10] すべての接着面にボンドを塗り、側板 B をかぶせて接着すれば完成。

- ・ズレが生じないように充分ご注意ください。
- ・ボンドが完全に乾くまで、ハタガネなどで固定させてください。
- ・重しなどを使うとより効果的です。

※側板をかぶせて接着する前に、ターミナルを操作してみてしっかりと固定されているかを最終的に確認しておくことをお勧めします。ターミナルが緩い状態だと音道内部でO型リングとナットが外れ、接着後の修復が不可能となる可能性があります。

